

令和6年度 栃木県立宇都宮工業高等学校（定時制課程） 学校評価表

教育目標

豊かな人間性、幅広い知識を身につけ、自ら考え、自ら考え、自ら行動できる視野の広い人材を育成する

目指す学校像

社会で必要とされる基礎的・基本的な資質・能力を持ち、社会に貢献できる人材を育成する学校

育てる生徒像

- 挨拶がしっかりできる生徒
- 学習に真剣に取り組む生徒
- 皆勤・精勤を目指す生徒
- 学習と仕事を両立する生徒
- 環境の美化に心がけ公共物を大切にする生徒

本年度の努力目標

- 1 学ぶ喜びを感じる教育実践
- 2 豊かな心を育て、基本的生活習慣を身につける教育活動の推進
- 3 生徒が主体的に学ぶことができる教育環境の整備
- 4 自ら研究を行い、生徒から信頼、尊敬される教師を目指す実践

R6 学校評価表

評価【A：十分な成果があった B：概ね成果があった C：成果が不十分、改善が必要】

学校関係者評価

（評価日：令和7年2月3日）

努力目標	努力目標達成のための 具体策	自己 評価	成果と反省及び次年度への課題	評価		学校関係者からの 意見・要望等
1	①分かり易い授業の実践	A	少人数による習熟度別学習や学習ツール「スタディサプリ」の活用により、生徒の個別最適な学び直しが実現できつつあり、これまで授業が分からなくなってしまった生徒であっても、学ぶ喜びを感じる場面が増えている。アンケート項目「分かり易い授業を行っている」では、生徒：85.7%、保護者：93.3%が肯定的な回答であった。一方で、生徒の14.3%が否定的な回答をしており、理解できたと実感できるような授業の在り方を、教職員全体で工夫していきたい。	A	A	・文章表現力、話す、書くと基本的な言語能力の育成に力を入れ、まずは生徒の文化的・社会的な生活力を高めようとしていく意図が伝わる。 ・定時制では、生徒ごとに能力の個人差が多いと思われるので、個に応じた指導は状況に合っていると思う。 ・「スタディサプリ」の活用により、学び直しができることは学習意欲の向上にもつながると思う。 ・生徒の自主性を引き出すことに尽力している様子が伝わる。
	②言語活動の充実	B		B		
	③個に応じた学習指導・進路指導の充実	A		A		
	④体力の向上を図る取組	B		B		
2	①基本的な生活習慣と技術者倫理向上を図る取組	B	アンケート項目「社会のルールやマナーを守ることの大切さを教えている」では、生徒、保護者、教員の90%以上が肯定的な回答であった。今年度「心の健康観察」システム推進事業のパイロット校として、スマートフォンを活用したアプリを導入した。自らの困り感をうまく表現できない生徒や遅刻、早退の多い生徒、欠席が長引く生徒など、配慮や支援が必要な生徒に対して、教育相談係を中心として早い段階で状況を把握、共有し、支援する体制を構築することができた。アンケート項目「私は学校を休まないで通っている。」では、肯定的な回答が前年比で+4.5%と上がっており、今後も効果的な運用を継続することで単位未修得者・中途退学者の低減を目指したい。	B	A	・アプリの活用など、毎日の積み重ねで生徒との繋がりを増やしている。 ・進路等については、生徒本人と保護者の志向のすりあわせが必要となるケースもあると思うが、適度な距離感を保って対応を継続してほしい。 ・挨拶は言語活動の充実にもつながるので、将来の就職後のためにもしっかりやってほしい。 ・困っていることを自ら発信することは非常にハードルが高いため、スマートフォンを活用したアプリを導入した取組は有益である。
	②単位未修得者・中途退学者の低減を図る取組	A		A		
	③交通事故「ゼロ」を目指す取組	B		B		
	④家庭との連携の充実	A		A		
3	①生徒が主体的に学ぶことができる活動の充実	A	生徒アンケート項目「私は目的をもって学校に通っている。」や「私は積極的に授業に出席している。」において、肯定的な回答は、それぞれ81.8%、82.6%であり、昨年度比で+7.7%、+4.3%と上がっている。また、生徒会活動においては、学校行事等で生徒会が主体的に企画・運営に携わる機会が増えている。資格取得においても、これまでチャレンジしたことのない資格に挑戦する生徒が見られた。一方で、主体的に取り組む意識は向上しても実際の行動にうつすことが難しい生徒もおり、自己肯定感の醸成を含めた教育環境のさらなる整備が必要である。	A	B	・全体的に生徒の学習力向上以前に心のケアの重要性を感じる。 ・3S精神が工業系の技術者にとって特に重要であることを生徒が理解するよう、今後も指導してほしい。 ・就職活動が順調でなかった生徒についても、生徒の希望を確認しつつ、きめ細かい就職支援が実施できている。 ・清掃も生活習慣の安定につながるもので、引き続き取り組んでほしい。 ・自己肯定感が著しく低い場合、カウンセリング等外部の支援が必要である。
	②3S運動の推進	B		B		
	③企業や地域との連携推進	B		B		
4	①自主研修・研究の推奨	B	多くの教員が、専門教科はもとより教育情報セキュリティ、生徒指導、教育相談、人権教育、特別支援教育等の研修や協議会に参加し、自己研鑽に努めた。自動採点支援システム「百問繚乱」の活用においては、若手教員を中心として活用方法を研究し、周囲の先生方と共有した。全国教育研究大会においては、養護教諭が「個別指導に関する分科会」のパネラーとして話題を提供し議論を深めた。	B	B	・教員同士が互いに研鑽し合う頻度が高くなるとマンネリ化して効果が薄れてしまうので、学外研修の報告なども加えると効果的である。 ・情報技術の急速な伸展や社会情勢の変化など、教育現場にも大きな影響があり、教職員の方も日々の研鑽を連携して行っていることが伺える。
	②指定研究への積極的な取組	B		B		